

令和5年1月1日に思う

謹んで新春のおよろこびを申し上げます

川上村長 栗山忠昭

年頭にあたり、村民みなさまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年を思い起こしますと、十月末の「温泉ガストロノミーウォーキング」には県内外から多くの参加者を得て、大変好評をいただきました。この催しは、川上村観光協会をはじめ、各種団体等が主体的に進められたよい事例となりました。七月に事務所がオープンしました「かわかみ源流ツーリズム」のプログラムでは、既に何名かの村民の方がガイドをされて、川上村の魅力をお伝えいただきました。今後多くの方々に、もっともっと参画いただき、培われてきた経験と知恵や技を発揮いただきたいと思います。

いずれの取組みにも、みなさまと「協働」で進めるためのヒントがあると思います。

もちろん、「協働」での取組みは、何も村外のお客さまを楽しませるだけのものではありません。健康づくりの会の方々が、積極的に自ら教室を開催して、地域の人々の拠り所になっていたり、ここ数年、村の特産品の開発と販売へ熱心に取組まれたり、地域の清掃活動を続けられたり、また決して順風でない経済環境下でも、日々の経営を続けられる姿、これらも素晴らしい「協働」の村づくりの実例と言えます。ここに書ききれませんが、

ほかにも多くあります。

さて「協働」とはなんでしょう？ “水源地の村づくり”に向かって村民や事業者と村（役場）が共に働くこと。難しく聞こえますか？ そんなことはないです。この村で、みなさまが一日一日を元気で楽しく、やりがいをもって暮らしていただくこと。このことが何より村づくりへの貢献であり、全国にいや、世界に誇れる川上村となります。

そのやりがい、生きがいにつながる機会づくりで村（役場）は、精一杯働きます。村民のみなさまには、まずは関心を持っていただき、どうか、それぞれのできるかたちで、いっしょに進んでまいりましょう。村づくりの支えとなるのは、一人一人の力です。

今年もどうぞ、よろしく願いいたします。